

[025] 中国文学論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/9897>

出版情報：中国文学論集. 25, 1996-12-25. 九州大学中国文学会
バージョン：
権利関係：

彙報

○講義題目（平成八年度）

特研	中国語学・中国文学の諸問題	竹村	教授
特講	楊貴妃文学史研究	竹村	教授
演習	仇兆鰲『杜詩詳注』	竹村	教授
	洪昇『長生殿』	竹村	教授
	古代漢語	康	教師
	中国戯曲史	康	教師
	中国古代文学名著講析	康	教師
	中国語会話	康	教師
	中国戯曲、小説研究 （比較社会文化研究科）	日下	助教授
	中国古典語文法入門 （言語文化部）	西山	助教授
	中国現代文学史概説 （西南学院大学）	新谷	助教授
	中国語初歩	明木	講師
	中国語	明木	講師
臨講	中国小説史の諸問題 （埼玉大学）	大塚	教授

彙報

○卒業論文

『封神演義』哪吒太子像の形成過程 （修士）	角田 美和
北島詩考——《回答》を中心として—— （学部）	諏訪 幾士
莊子における神について （学部）	阿南 大輔
顧炎武と復社——青年期を中心にして—— （学部）	今村健太郎
『唐物語』における『白氏文集』の受容 （学部）	園田 高子
現代中国語の疑問文と副詞について （学部）	濱田 真美
『水滸伝』から見た馬琴『八犬伝』 （学部）	藤永 容子
太陽と月——魯迅の世界の変遷について—— （学部）	皆迫 麻里
老舎の文芸観——「駱駝祥子」を中心として—— （学部）	吉原 聖子

○中国文芸座談会

第一六〇回（平成八年一月二十日）

中国古典小説中の「虎」——『水滸伝』

武松打老虎を中心に—— 真鍋 敦

『戦国策』と『史記』——司馬遷の執筆態度

について—— 山中 茂樹

『三国志演義』における関羽・張飛の人物像

—— 河野 真人

上古漢語における指示詞「彼」の他称詞

としての用法—— 西山 猛

第一六一回（三月十六日）

漢代における風のうた——高祖「大風歌」と

武帝「秋風辞」を中心に—— 松隈 信一

中国語と英語の時間概念について 関 美由紀

杜牧「江南春絶句」考——その烟雨の向こう

に見えるもの—— 愛甲 弘志

第一六二回（四月二十八日）

『楚辞』九章涉江篇の形式について

——押韻と朗誦リズムの関係の検討—— 野田 雄史

西廂故事の戯曲化について——金・董解元

『西廂記諸宮調』を中心として——

周作人文学の滑稽趣味について

第一六三回（七月六日）

伊地知季安と佐藤一齋——桂庵禪師碑銘作成

を手がかりとして—— 東 英寿

〔講演〕

『白氏文集』の旧鈔本と旧刊本—— 岡村 繁

第一六四回（九月十四日）

奇数句末韻・句中韻による『楚辞』離騷篇の検討

—— 野田 雄史

『歐陽詹』故事からみた「恋愛教本」としての

『鶯鶯伝』—— 諸田 龍美

『西遊記』におけるトリックスター—— 入谷 仙介

特別講演会（十月十九日）

『西廂記』研究的幾箇問題

（中山大學）黄 天驥

第一六五回（十一月二十三日）

喬吉『揚州夢』研究—— 王 展

『子不語』と『閻微草堂筆記』における

創作意図の比較—— 蕭 燕婉

維新派の発行した『北京万国公報』

の命名をめぐって—— 若杉 邦子

○学会発表（中文研究室関係のみ）

平成八年度九州中国学会大会（平成八年五月十八日・

十九日 於鹿児島純心女子大学）

周作人文学の滑稽趣味について 吳 紅華

西廂故事の戯曲化について——金・董解元

『西廂記諸宮調』を中心として——

黃 冬柏

『楚辞』九章涉江篇の形式について 野田 雄史

日本中国学会第四十八回大会

（平成八年十月十二日・十三日 於神奈川大学）

奇数句末韻・句中韻による『楚辞』離騷篇の検討

野田 雄史

『欧陽詹』故事からみた「恋愛教本」としての

『鶯鶯伝』 諸田 龍美

○会員近著（事務局把握分）

岩佐 昌暉 『よくわかる中国語（初級）』

他 共 著 （光生館、平成七年三月）

藤井 良雄 袁中郎『珊瑚林』巻上訳注

他 共 著 （宋明思想研究会、平成八年一月）

秋吉久紀夫 『戴望舒詩集』

（土曜美術社出版販売、平成八年五月）

日下 翠 『金瓶梅』（中公新書、平成八年七月）

○会員消息（事務局把握分）

秋吉 收 平成八年十月 東京大学東洋文化研究

所公立大学研究員（平成九年三月）

池田 園子 平成八年四月 福岡市総合図書館嘱託

（国際資料担当）

日下 翠 平成八年三月 九州大学より文学博士

の学位を授与（『中国戯曲小説の研究』）

静永 健 平成八年四月 久留米大学文学部講師

福満 正博 平成八年四月 明治大学文学部助教授

松岡 純子 平成八年九月 中国・北京大学に訪問

研究（平成九年三月）

岡村真寿美 平成八年四月 九州大学文学部助手